

「あまおう」12月の管理

南筑後普及指導センター

福岡大城農業協同組合

今年産のあまおうは11月中旬から出荷が始まりました。今年は、夜間の冷え込みが早かったため、玉伸びはしているものの果実の生育がやや遅く、現在は、早期作型で1～2果収穫、普通作型で親指程度の生育状況となっています。

また、今年はV型や普通作型で早進株の発生が多く見られています。12月以降は着果負担の増加や低温で株が弱りやすく、特に早進株は注意が必要です。見た目の生育に惑わされないよう心葉の伸長状況を毎日確認し、株がわい化しないように管理して下さい。

病害虫では、ハウスを閉め込み始めてから定期的に雨が降ったため、灰色かび病が発生・拡大しやすい状況になっていますので、予防対策の徹底をお願いします。

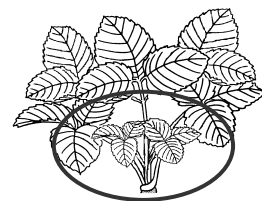
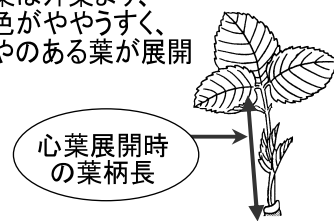
電照時間の調整

果房の連続性向上と収量増加のため、草勢が適正に維持できるように電照時間を調節して下さい。

- 電照時間の調節は、心葉の展開状況を観察し、株の着果状況や天候から今後の生育を予想して行う。
- 電照時間は30分～6時間の範囲で調節する。
- 3～4番花房の花芽分化に影響する可能性があるため、株の生育が極めて悪い場合を除いて5時間以上の電照は控える。
- 厳寒期は、生育が旺盛な場合でも電照を完全に切らない。

【心葉展開時の葉柄長の測定】

心葉は外葉より、葉色がややうすく、つやのある葉が展開



わい化状態の心葉

【電照時間調節の目安】

	時間を長く	現状維持	時間を短く
心葉の葉柄長	8 cm以下	9～11 cm程度	12 cm以上
心葉の色	濃緑色	緑色	黄緑色
果房の方向	45度以下	45度	45度以上
着果負担	増加	並	減少
予想気温	低温	並	高温

温度管理

果実の肥大期は高めの管理、収穫期は低めの管理とする。

- 株が小さく生育が遅れている場合は、やや高めの温度管理で生育促進を図る。
- 換気で急に温度が下がらないよう、サイドや谷の開け幅を調整する。
- 風上側のサイドは風下側よりも狭く開ける。
- サイドの内側や谷には内ビニルを張り、風が直接吹き込まないようにする。
- 果房の出蕾期には暖房機の設定温度を上げて、早期開花を促す。



【 温度管理の目安 】

生育ステージ	昼間	夜間	備考
1 番果房収穫期	20～24℃	5～7℃	収穫中は品質向上のため低めの温度管理 12月中旬以降はやや高めに変更
1 番果房収穫終了後 2 番果房出蕾～肥大期	24～28℃	5～7℃	2 番果房の生育促進と、3 番果の早期出蕾を 目的として高めの管理

かん水管理（pF目標値1.7～1.8）

- かん水は地温を下げないように、収穫終了後の午前中に行う。
- かん水は少量多回数で行い、高温管理する場合は、かん水量を増やす。
- マルチの上から指で触ったり、マルチをはいだりして水分状態を確認してかん水する。
- かん水不足の場合、①草勢が低下する、②心葉の先に葉水が出ない、③葉や果実のツヤがない、④果実と果梗の離れが悪い、⑤通路に亀裂があることが多い。

肥培管理

- 液肥は株が弱らないように定期的に施用する。
- 液肥は窒素成分で月に2kg/10aを2～3回に分けて施用する。
- 毎年、先青果や先白果の発生が多いほ場では、施用量を減らすが施用を控える。
- 2番花房の出蕾が遅れた場合は、窒素分の吸収量が多くなり、2番果房の果形が乱れやすくなるため、1番果房終了から2番果房着色期までは追肥をしない。

ジベレリン処理

- 2番果房出蕾期や、草勢が弱く株のわい化が予想される場合に、5～7ppm程度で株あたり5mlの処理を行う。（※ジベレリン：総使用回数10回以内）

摘果、果梗・古葉の除去

- 摘果は2番果房の出蕾を確認して行う。
- 早進株は株疲れしやすいため、1番と2番果房を併せて10～12果/株に摘果する。
- 1番果房の収穫が終了したら、すみやかに果梗を除去する。
- 葉かぎは、傷んだ葉や黄化した葉のみを除去する。

【 1～2番果の葉数と摘果数の目安 】

1～2番果の葉数	4～5枚	6～8枚	9枚以上
1番果房の着果数	7～9果	10～12果	裾花のみ摘果

その他

- 成り疲れを軽減するため、発根促進剤（チャンス液など）を流し、根の発達を促す。
- ミツバチの活動が悪いと奇形果が多くなるため、訪花状況を常に気をつける。ミツバチの活動が低下する原因には、低温、花不足（餌不足）、農薬などが考えられる。
- 炭酸ガス発生装置は、日の出時に濃度が2,000ppm程度となるようタイマーをセットし、早朝の換気を避ける。また、硫黄くん煙剤を使用する場合は、亜硫酸ガスが発生しないよう硫黄くん煙剤処理終了後3時間以上あけてから炭酸ガス発生装置を稼働させる。

病害虫防除

- 灰色かび病・菌核病
 - 湿度が高いと発生しやすいため、できるだけ換気を行う。
 - 曇雨天日などは暖房機の送風や循環扇を活用する。
- うどんこ病
 - 軟弱徒長した株に発生しやすいので、多発したほ場ではやや低めの温度管理を行う。
- ※ 灰色かび病、うどんこ病は、発病部位を速やかにハウス外に持ち出す。
また、定期的な薬剤散布による予防に努める。
- ハダニ類
 - 春先の急増を予防するため、ハダニ類の活動が衰える12～1月に防除を徹底する。
- スリップス類
 - 年内に飛び込んできたスリップスをしっかりと防除し、ハウス内で越冬させない。
 - 薬剤散布の際にはミツバチへの影響日数に注意する。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！